

賑わいを今に～飢肥城下町の取り組み～

一般財団法人 飢肥城下町保存会/日南市

手づくり郷土賞について

講評

一般部門

大賞部門

資料集

宮崎県日南市飢肥城下町は、飢肥藩伊東家5万1千石の城下町として栄えました。江戸時代はじめて形成された城下の地割り、石垣と生垣、格式に応じた武家門が数多く残されています。

一方、飢肥城下町にある本町商人通りでは、道路拡幅工事に伴い、沿道家屋の立ち退きが必要となり、商人通りとしての街並み（景観）が失われる危機にありました。

そうした中、飢肥城復元や伝統的建造物の保存、本町商人通りの歴史的街並みの再生を行うため、昭和51年に財団法人飢肥城下町保存会が設立されました。

以後、保存会と地域住民が協力し本町商人通りの歴史的街並み再生、市民の寄付等により飢肥城復元や歴史的建造物の修理整備を次々と行ってきました。こうした取り組みに対して、昭和62年に建設大臣表彰である「手づくり郷土

賞」を受賞しました。

その後も、継続的な清掃活動、「四半的」や「弥五郎人形」等の指定無形文化財を活用した地域色の演出、市民による日南市観光ガイドボランティアの会の発足、飢肥城下町「食べあるき・町あるきマップ」による回遊型の賑わいの創出を行ってきました。加えて、国際交流センター小村記念館などの歴史由緒施設の整備、本町商人通りの看板色の統一化など、地域が一体となって、飢肥城下町の賑わいを今によみがえらせようとする総合的な取り組みが継続されております。

その結果、飢肥城が復元された昭和54年の飢肥への観光客はわずか4万8千人でしたが、今では約20万8千人（約4倍）もの観光客が飢肥に訪れるようになりました。



看板色彩の統一化



観光ガイドボランティアによる案内



食べあるき町あるき



市民による清掃活動



県指定無形民族文化財の弥五郎人形行事



日南市指定無形文化財の四半的

- ◆所在地
宮崎県日南市飢肥地内
- ◆活動内容
食べあるき・町あるき（毎日）、ボランティアガイド、泰平踊、四半的、弥五郎人形祭り（11月23日）
- ◆活動主体及び連絡先
一般財団法人飢肥城下町保存会（0987-25-4533）
<http://obijyo.com/>
- ◆対象となる社会資本
飢肥城由緒施設及び飢肥城下町
※管理者：日南市教育委員会（文化生涯学習課 0987-31-1145）

